

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

【今月のアーティスト】 砺波 周平(となみ しゅうへい)さん 写真家・富士見町在住

砺波周平さんは、北海道の出身。北里大学獣医畜産学部に学び、在学中から写真家の細川剛氏に師事。写真家として独立するにあたり、便利な反面、暮らす上で制約が多い都会より、地方を拠点にすることを選びました。それは、自分が思い描く理想の生活と、仕事の実践の両立を目指すことでありました。こうして出会ったのが、富士見町。信濃境に畑と庭付きの古い一軒家を借り、家族で協力しながら日々の暮らしを楽しんでいます。制作のテーマにも「日々の暮らし」を据え、自分と関係の深い身近な人や事柄と、正面から向き合って撮影することを心がけています。また、信濃境に住まう中で培ったという、被写体とのコミュニケーションや、密接な関係性を大切にして、撮影に臨んでいます。

砺波さんは、普段は当たり前すぎて見過ごしている身近な人や、過ぎ去っていく日常に潜んでいる感動を、写真を撮ることで再確認していると語ります。その写真からは、日々のひと時を慈しむ視線、かけがえのない一瞬を温かく記録する技を感じます。

砺波さんは、2011年、12年に東京都新宿区や山梨県北杜市で写真展を開催。2013年、14年には東京都八王子市「AKITEN」に出展するなど積極的に活動しています。また、雑誌や広告の撮影の仕事をする一方、自治体のプロモーションも手掛けています。特に現在は、「写真の町」として有名な北海道東川町や、青森県鯉ヶ沢町、長野県原村、沖縄県伊是名島など、北から南まで日本中のローカル・プロモーションに携わっています。

「日々の暮らし」をテーマにしているので、写真の背景には常に富士見の自然や町並み、人物が写っていると話す、砺波さん。時には近所の方々が、町内の素晴らしいロケーションを案内してくれることもあるそうです。以前に見た、信濃境の「どんど焼き」の美しさに感動し、これからは富士見のお祭りや行事にも参加して、素敵な時間を写真に撮っていきたいと意気込んでいます。



◀高森で出会った初老のお百姓さんの手。木の伐採から畑仕事までほとんどモーターは使わず手作業だという。これまで過ぎてきた時間がそのまま手に刻まれているような気がした。
©Shuhei Tonami



◀毎年、必ず下篇木の川原で家族写真を撮っている。通ううちに、子どもたちも犬もこの場所がお気に入りになった。
©Shuhei Tonami

【Information】 山梨県の情報を掲載したフリーペーパー『BEEK』に、家族を取材撮影するシリーズ「家族の風景」を連載中。月刊フリーペーパー『CHIBIKKO PRESS』のシリーズ「こたえは森のなか」で森のようちえんピッコロの写真を毎月掲載。

ホームページ:<http://tonami-s.com/> ブログ:<http://tonami-p.jugem.jp/>

フェイスブック:<https://www.facebook.com/shuhei.tonami> メール:photo@tonami-s.com



©Shuhei Tonami

文：前島孝一（小海町高原美術館館長・清里フォトアートミュージアム職員） 富士見町富士見在住
facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>

Stay Smile 練習相手や仲間を思いやる気持ちを持って

富士見中学校 卓球部

富士見中学校卓球部は、1年生9名、2年生11名で活動を行っています。卓球は狭い台上で試合をするため、スピードがあるうえに、球に様々な回転がかかってくるので、判断力や技術力が試されるという難しさがあります。そのため、日頃から、素振りやフットワークなどの基礎練習や、サーブやレシーブ、攻撃など個人の目標に合わせた練習をしています。一回一回、真剣に取り組んでいます。基礎練習をしっかりと行うことで、試合で安定した球を打つことができ、勝つことにつながっていくと思います。

また、より強くなりたいという向上心のもと、積極的にコーチに教えてもらい、それを繰り返し練習することで、さらなる高みを目指しています。新しい技術を身につけ、それを試合で使えたときや、自分のイメージ通りにスマッシュが打てた時はとても楽しいです。



▲引退した3年生と一緒に

今の時期、大きな大会はありませんが、今こそ来年度に向けてさらに技術を身につけていく時です。また、技術だけでなく、挨拶や応援にも力を入れ、一人ひとりが練習相手や仲間を思いやって活動できるようにもしたいです。

ここ数年、県大会までいった人はいませんが、来年度の中体連で勝ち上がる可能性は十分あると思います。そのために、今後も集中して練習し、力をつけていきたいです。

(卓球部部長 櫻井諒太)



Stay Smile 長野県神城断層地震災害義援金を受け付けます

日本赤十字社 富士見分区(住民福祉課社会福祉係) ☎62-9144

平成26年11月22日の長野県神城断層地震災害により、多くの負傷者や家屋被害が発生したことから、白馬村、小谷村、上水内郡に同日付で災害救助法が適用されました。日本赤十字社富士見町分区では、この災害で被災された方々の生活再建の一助とするため、義援金の受付を行っています。

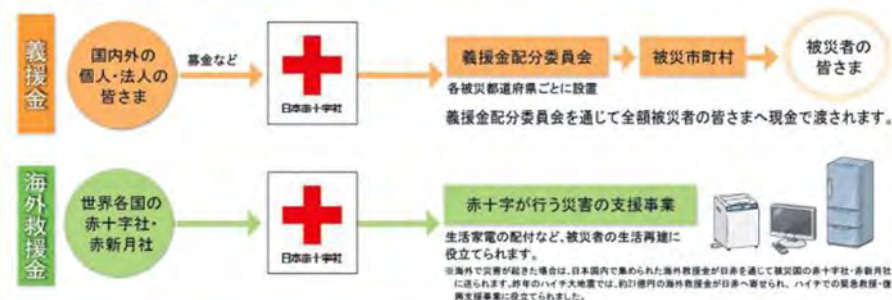
●「義援金」「海外救援金」「活動資金」の違いについて

富士見町役場1階ロビーに募金箱を設置していますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

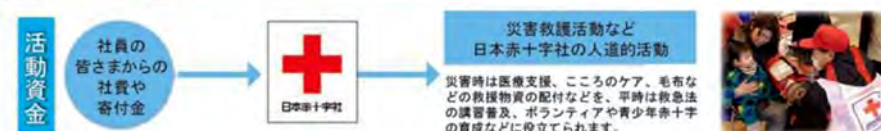
※義援金は長野県に設置される災害義援金配分委員会を通じて、全額被災者へ配分されます。

【受付期間】 平成26年11月27日
～平成27年3月31日

義援金や救援金の流れ



活動資金の流れ



▲白馬村ふれあいセンター避難所を巡回診療する安曇野赤十字病院救護班

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの領分を守るために～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「ありのままを受け止める」ということ

今年の流行語ベストテン入りを果たした「ありのまま」。大人のみならず、今や子どももストレスを感じながら過ごしている時代にはとても心地よい響きです。では、子どものありのままを受け止めるってどういうことなのでしょう。子どものやりたい放題に目を瞑ることなのでしょうか？

ブロックで何かを作っている3歳の男の子、思うように作れず癇癪をおこしてブロックを投げ出し、投げたブロックが側にいた赤ちゃんのおでこにあたり、赤ちゃんはおでこを怪我してしまいました。この時、「ブロックは投げるものじゃない!」「赤ちゃんを怪我させるなんてとんでもない!自分より小さい子には優しくするのよ!」と言うのも間違いではありません。でも、一歩踏み込んで、この子は「思うようにできない自分へのイライラを癇癪をおこすということで解消しようとしている」状態なんだ、そういうタイプの子なんだ、と思って対応すると、「うまくできなくてくやしかったね」と共感してあげられます。共感してもらったことで子どもは気持ちを整理でき、赤ちゃんを傷つけてしまったことも「いけなかった」と受け入れられようになります。

子どもが大人になった時に困らない程度の躰をしておかないと、勉強もそこそこできるようにしておかないと、ちゃんと食べさせて体をつくってやらないと、さらにお友達ともうまくやれる子にしないと…などなど、子どものためと言いつつ、実は親が無意識に親としての自分への評価を気にしてやっていることが多いのです。

そうすると、目の前の子どもの「持ち味」を無視し、その子の心の中に気持ちを寄せることもどこかに飛んでいってしまいます。ひとりひとりの子どもの持ち味や、心の中を大切に考えることは難しいと思いますが、意識すれば徐々にできていきます。そんな大人が増えれば、子どもたちは自ずと、自分の育ちに必要生活習慣、社会的マナー、学習意欲などを自分のペースで身につけていくものだと思います。子どもはもともと育つ力をもっているのですから。

子どもたちが、生きていく力を大人の押しつけでなく自分で考えて身につけていける社会は、実は大人も過ごしやすい社会だと思います。子どもも大人も個々のありのままを尊重しながら、社会全体を心地よいものにしていくため、力を合わせていけることを願っています。

